

金沢市におけるバス交通の利用実態について

計画情報研究所	正会員	○北原 良彦
金沢大学工学部	正会員	木俣 昇
金沢大学工学部	正会員	高山 純一
金沢市都市政策部		伊藤 久輝
計画情報研究所	正会員	四藤 一成

1. はじめに

金沢市のバス交通は、近年のモータリゼーションの進展に伴い、バスサービスレベルの確保が困難となっており、慢性的なバス利用者の減少傾向を招いている。

このような背景から、自動車交通とバス交通との適正な機関分担移行策の検討を行うとともに、バス交通自身についても、バス利用者の意向を把握し、現在のバスサービスレベルと利用者意向との関係を明確にし、バス利用者の増加を図る施策の作成が急務となってきた。

しかしながら、利用者を対象とした満足度や改善要望等のアンケートを実施した事例はない。

そこで本論文では、バス利用者を対象に、バス交通

施策の作成を目的として平成4年10月に実施したアンケート調査の概要を述べるとともに、バス利用者の意向や現在のバスサービスレベル及びその関係についての分析結果を報告するものとする。表1に、バス交通施策作成までの検討フローを示す。

2. アンケート調査の概要

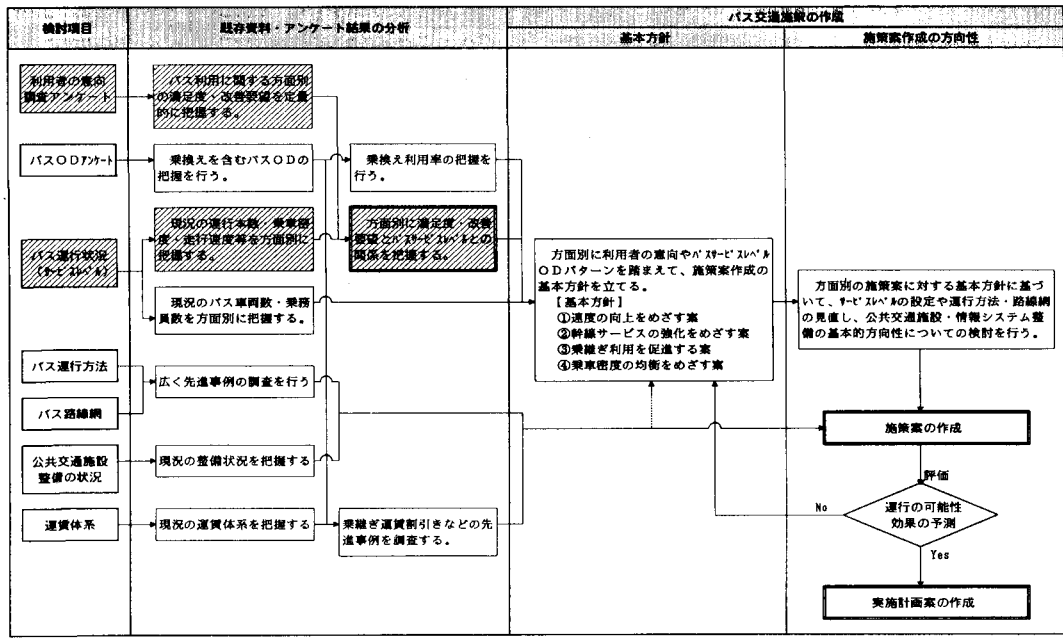
(1) アンケート方法

市内の主要なバス停11箇所のバス降客者を対象に、縦23.5cm・横12cmの定型封筒サイズのアンケート票を直接配布し、郵送による回収を行った。

(2) アンケート票の構成

アンケートは、調査日のバス利用状況(バスOD調査)・日常利用頻度・満足度・改善要望・個人属性・意見欄の構成とした。

表1 バス交通施策作成の全体フロー



このうちバス利用状況については、乗車の『行き』と『帰り』の2トリップの質問とした。

(3) 回収結果

配布枚数35,160枚に対して、有効回収枚数が5,830枚あり、回収率は17%であった。直接配布・郵送回収法としては回収率が高く、バス利用者の関心の高さが伺える。

3. 利用者意向の分析結果

分析は、利用者の意向やバスサービスレベルは方面によって差異があるという仮説のもとに、行うものとした。

(1) 『行き』の乗車目的

「出勤」目的が6割以上を占め、次いで「登校」目的が2割弱、その他が1割弱であった。(図1参照)

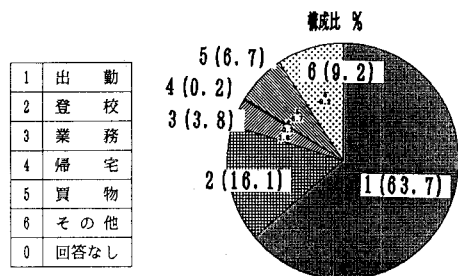


図1 『行き』の乗車目的構成比

(2) 改善要望の1位

図2に示す8項目の改善要望に対して択一形式で質問したところ、最優先に改善してほしいものとして、「運行本数」が25.2%、「バス料金」が20.2%、「運行時刻の正確さ」が15.2%、「車内の混雑具合」が10.4%の順であった。

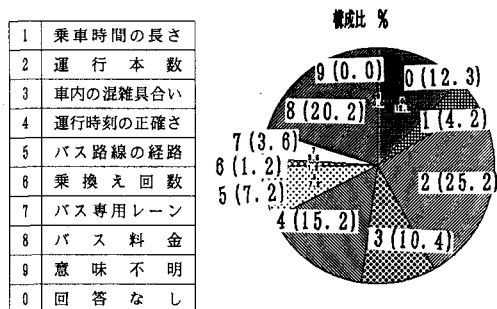


図2 最優先改善要望の構成比

また、金沢都市圏を6方面ゾーンに分割した場合の最優先改善要望を図3に示すが、都心部では「バス料金」が1番目であるのに対して、西部・北部・東部・南部方面ではいずれも「運行本数」が1番目となっている。方面別には構成比にかなりの差がある。

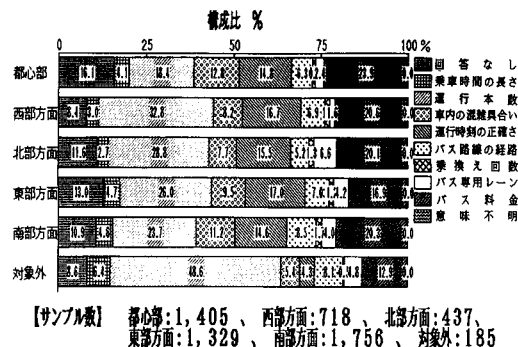


図3 方面別最優先改善要望の構成比

(3) 意見欄記入の有無

意見欄への記入が約5割あり、バス利用者の関心の高さを物語っている。今後は、この貴重なご意見をキーワードにより分類し、バス利用状況や満足度、改善要望等と関連づけて分析したいと考えている。

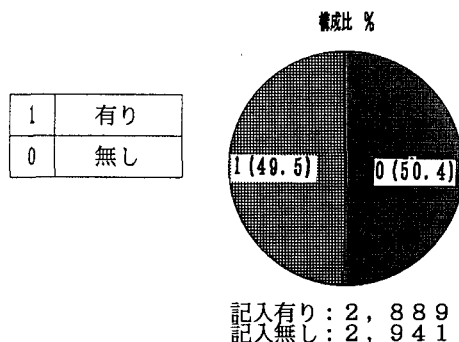


図4 意見欄記入の有無の構成比

4. おわりに

利用者意向の詳細な分析、バスサービスレベルの分析及び利用者の意向とバスサービスレベルとの関連分析等についての結果は、発表時に報告するものとする。

また、本調査は金沢市総合交通計画実施検討調査の一環として行われたものであり、金沢市都市政策部交通対策課をはじめ、調査にご協力頂いた各位に対して心から感謝の意を表したい。